

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1590100069 | | |
| 法人名 | 株式会社東日本福祉経営サービス | | |
| 事業所名 | グループホームおやの家 | | |
| 所在地 | 新潟県新潟市江南区亀田向陽1丁目8番7号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年11月12日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/15/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社団法人新潟県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年1月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>・地域に開かれるとともに、地域の福祉介護に寄与するグループホームを目指し、今年度から介護相談会を計画し毎年恒例のなごみ祭りの開催に合わせ自治会住民様への広報を実施。行政(福祉部高齢者支援課地域支援室、福祉施設整備係)、地域包括支援センター、運営推進会議構成委員様のご指導とご協力を得ながら、亀田 亀田西圏域の住民様を対象に開催により継続的に計画実施を取り組んでいきます。</p> <p>・認知症ケア啓発の一環として、グループホームでの随伴精神症状、行動心理症状に対応した実践内容を踏まえ、人材育成の貢献としてヘルパー施設実習と市内専門学校(介護福祉学科)学生のグループホーム実習を定期的に受け入れております。</p> <p>・ホームは亀田駅東口徒歩3分と知人家族等公共交通機関ご利用の来所に便利な好立地の新興住宅街にあり、介護付有料老人ホームが併設している、外観は施設のイメージが強いですが、ホームユニットの中に入ると1面全面が窓のリビングがあり明るく開放的でご利用者が安心して過ごしておりご面会者見学者にも好評を頂いております。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>ホームは駅から程近い新興住宅街に位置し、介護付有料老人ホームが併設され、明るい色彩の建物である。母体法人は県外にも多様な福祉サービスを展開する株式会社であり、「グループホームおやの家」は、認知症介護に積極的に取り組みたいと開設した法人唯一のグループホームである。</p> <p>職員は、運営理念に基づいて利用者の立場に立った介護を心がけ、より良いケアのあり方を常に考え実践に努めている。職員のケアの質の向上を目指し、法人主催の研修会をはじめ事業所内の研修会を充実させ、スキルアップに努めている。また、主治医との連携・協力体制も整備されており、主治医から日ごろのケアへの助言を得たり、利用者の急変時に対応してもらっている。</p> <p>自治会長との付き合いをはじめとして、地域との交流にも努力している。運営推進会議での意見をもとに、平成24年度から事業所の夏祭りの開催にあわせて「介護相談会」も実施している。</p> |
|---|

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運会社の企業理念(3つの使命)運営理念(3つの心)に基づいた、地域密着型サービス事業所独自の理念があり、「3つの心ある事業所」である事を大切に、地域の住民として暮らせるように支援している、ホーム内に理念を掲示、毎日理念を唱和し周知徹底している。 | 運営会社の企業理念と運営理念を基本として、ホーム独自の理念を設けている。共に掲示して毎日唱和し、職員の意識付けを図っている。ホームの会議等で理念をキーワードに話し合い、運営方針、事業計画に基づいて年度ごとにケアを振り返る機会を持ち、理念の実践に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域に開かれるとともに、地域の健康増進や福祉介護に寄与するグループホームを目指し、毎年恒例のなごみ祭りの開催に合わせ介護相談会を計画し自治会住民様への広報を実施。 | 地域の自治会の賛助会員になっており、総会等に参加したり、敬老会やクリーン作戦に参加したり、地域の情報を得る中で地域とのつながり、交流を大切にしている。併設の有料老人ホームと合同で夏祭りを開催して地域の方々に楽しんでもらっている。 | 催事等の時だけでなく日常的な地域との付き合いが今後深まるように、事業所からの情報発信、地域の方々に足を運んでもらえるような取り組みを期待したい。また、ホームの実践経験を地域に還元し、地域のケアサービスの推進・向上に寄与する取り組みにも期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の対応について、ご相談を頂いた場合は、できるだけ相談に応じさせていただきます。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 亀田地区グループホームの施設長、地域包括支援センターの保健師、近隣特別養護老人ホームの施設長、地域住民の方にご参加頂き、様々なご意見やアドバイスを頂きホームの運営について見直す大切な機会として活かし、今後も大切に取り組んでいきたい。 | 運営推進会議には利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得ている。地域の他のグループホームとは互いに会議の委員となり、自事業所のサービス向上につなげている。ホームの状況や取り組み報告、人材育成や防災、行事等に関する意見交換が行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営等福祉部高齢者支援課に連絡を取り、ご指導ご助言を頂いています。地域包括支援センター保健師の方に運営推進会議の構成委員としてご参加頂き、サービスの取り組みについて報告し、アドバイスを受けています。 | 市の担当者とは、日ごろから運営に関して不明な点をすぐに相談できる関係である。運営推進会議には地域包括支援センターの職員の参加を得て、取り組みを知ってもらい、災害時の避難所など防災に関する情報交換をしたり、ホームの行事等への助言を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ホームの玄関は、日中(7:00~20:00)は解錠されており、ドアホンチャイムを付け工夫しています。身体拘束はしないという共通認識のもとマニュアルを整備し、ホーム会議、内部研修、勉強会で周知しています。 | 会社全体で身体拘束廃止の指針、マニュアルを作成し、年間を通じて計画的に研修を行っている。ホームでは、身体拘束はしないという方針のもとマニュアルを整備し、身体拘束に関する研修会で職員の理解を深めている。身体拘束をしないケア方法を検討し実践している。 | |
| 7 | (5-2) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている | 併設介護付有料老人ホームと合同で研修を行っている、見守り所在確認を徹底し注意を払い防止しています、併設介護付有料老人ホーム含めた全職員参加研修を継続し、意識の統一に努めて行きます。 | 高齢者の虐待防止については、頻繁に併設の介護付き有料老人ホームと合同で研修会を行っている。コンプライアンスの研修会も行い、内容について職員個々でレポートを作成した。施錠や、言葉による行動抑制(スピーチロック)、不必要な薬物使用による行動抑制(ドラッグロック)など、不適切なケアについて話し合う機会を持っている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在制度が必要な方はおられませんが、必要に応じて活用できるように職員訪問者が常に見れるように玄関フロアーに置いています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に際しては、重要事項説明書を用いて理解が得られるよう説明し、契約締結を進め改定等は、家族会等開催し文書で提示し利用者代理人に同意を頂いています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口については併設介護付有料老人ホームと共用の玄関案内板に掲示し意見箱については玄関に設け、利用者家族についても意見が表しやすいよう運営推進会議に出席をお願いしています。 | 家族の面会時には職員から積極的に声をかけ話しやすい雰囲気作りに努めている。サービスの向上に必要なものとして家族の意見や要望を引き出せるように、玄関に意見箱を設置している。ホームの行事に合わせて家族会を開催したり、誕生会に招くなど、意見を表せる機会を大切にしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 1回/月(第3月曜日木曜日)、併設介護付有料老人ホーム含め、全職員参加合同全体会議と1回/月(第3木曜日)ホーム全体会議で意見や要望が話せるように努め、ホームの運営に反映しています。 | 全職員参加のホーム会議は月に1回開催し、利用者への対応や毎日の業務について活発な意見交換を行っている。また、併設施設と合同の会議が月1回開かれており、よりよい連携のあり方や合同研修会の内容等をともに検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人代表者（開設者代理・取締役）とは、1回／月の管理者（施設部門、在宅部門合同）会議で意見や要望を話せる環境にあり、2回／年全職員人事考課を行っています。資格（介護士）手当の厚遇をし、条件を整備しています。取締役は適宜ホームに訪問しホーム長や職員へ労いの言葉をかけ相談にのり、職員の熱意を引き出している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で行う研修に参加したり、1回／月（第3月曜日木曜日）併設介護付有料老人ホーム含め全職員参加合同全体研修を実施し、常にモチベーションの向上を意識できる環境が整備されています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 亀田地区グループホームの施設長とは、互いに運営推進会議の構成委員として参加、情報交換を行い、近隣グループホームの運営推進会議には、運営推進委員として参加し交流。法人内他事業所とは1回／月の管理者会議で定期的な交流と、職員は併設介護付有料老人ホームと委員会活動を通じ勉強し、他事業所の良い点を取り入れられる環境にあります。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 今年度は該当者なし | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 今年度は該当者なし | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 今年度は該当者なし | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | できる事は行ってもらっている。一緒に外出している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | (7-2) | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的に家族会を実施。受診など生活のあらゆる場面において家族と共に本人を支えていく関係を築いている。利用者の変化、近況等を伝えている | 日々の様子等は、主に家族の面会時に伝えているが、月1回ホームでの様子をお知らせするお便りを送付している。必要な物品の買い物や受診など、本人と一緒に過ごす時間を持てるように工夫して働きかけ、家族と共に本人を支援する関係作りに取り組んでいる。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 希望は聞かれないができる限りの支援を行っている。家族、知人の訪問を支援し、家族にも利用者の思いを伝えている | 利用者のこれまでの生活を知ること、こだわりや流儀等を大切にすることを意識し、家族等から情報を得ている。知人にホームを訪れてもらったり、馴染みの床屋に車椅子で家族と出かけたりと、大切にしている馴染みの関係が途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日頃の生活を観察し孤立しない関係づくりを支援している | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 個人的ではあるがご家族との関係をフォローしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の生活のなかの何気ない会話のなかで利用者の思いを伺っている | 担当職員が中心となって、日々の会話や関わりの中から利用者の思いを把握するよう心がけている。介護計画の見直しの時には改めて本人と家族に意向を聞いている。意向の把握が困難な利用者には、面会時や電話で家族から情報を得ながら本人本位に検討するよう努めている。 | |
| 24 | (9-2) | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族が来所されたおりに話を聞いている | ホームの利用前には、ホーム長や職員が自宅等に訪問し、これまでの生活の様子を本人や家族から聞き取っている。また、以前の担当居宅介護支援専門員や居宅サービス事業所等からの情報も活用しサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 利用開始時には馴染みの暮らしや生活歴等を聞き取り記録しているが、その後、日々の関わりの中で新たに得られた情報の記録は少ない。利用者や家族との関わりの中で得たこれまでの暮らし方や細かな生活習慣等に関する情報を適切に記録して、職員間の共有、支援への活用へとつなげることを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員間で情報共有し意見交換を行っている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人家族の意向や希望を踏まえ、介護職員の意見を聴取しサービス計画書を作成しています、サービス計画更新時等は本人(本人情動不安定時以外は必ず交え)家族介護職員出席でサービス担当者会議開催し情報共有を行っています。 | 包括的自立支援プログラムの課題分析シートを活用して、利用者のニーズや課題を把握している。毎日、短期目標と個別介護サービスが明記された介護記録を記載して、1ヶ月ごとにまとめ3ヶ月に1回モニタリングを行っている。計画の見直し更新時には、本人と家族と共に担当者会議を行い意見を出し合って、介護計画に反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の介護記録の他に、施設【(介護予防)認知症対応型共同生活介護】サービス計画に対するサービス内容を記入し、連絡ノート使用し、ホーム内の細かい情報を共有できるようにしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | なるべくニーズに添えるように努力している | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣のスーパー、美容院を利用また地域の行事に参加し散歩などに出かけている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関の主治医に随時相談し指示を仰いでいる | ホームの主治医が月1回往診しており、体調に変化があった場合はすぐに相談することができる。往診時連絡帳を活用し、情報提供したり、介護上の助言をもらうなど、主治医との連携を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員の配置はないが協力医療機関、急患センター等で支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|--------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 今年度は該当者なし | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化が懸念される方には情報提供しながら家族と話あっている | 利用契約時には、重度化に向けた方針を本人と家族に説明し、ホームとしてできることを十分に理解してもらいながら、生活を支援している。面会時等、実際の暮らしの中で細かな様子を伝えて家族との話し合いを行い、重度化に向けた方針の共有に努めている。本人・家族が安心して過ごせるように主治医との連携を図り、多様なサービス機関との連絡調整を行っている。 | |
| 34 | (12-2) | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDを設置し実践研修を行っている。緊急時のフローチャートを用意している | 緊急時のマニュアルが整備され、介護の場面ごとにフローチャート化された緊急連絡体制が整えられている。ヒヤリ・ハットやアクシデントレポートの作成が定着し、より記入しやすい様式やマニュアルを整えており、レポートを集計・分析して事故防止に取り組んでいる。 | 誤嚥や意識低下、嘔吐等、日常的に起こりうる場面への初期対応や応急手当については、実践力が不可欠である。様態変化の把握を行うと共に、初期対応や応急手当の実践力を養うための訓練を継続的に行うことを期待したい。 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年二回防災訓練を実施している | 火災や夜間を想定した防災訓練を年2回行っている。併設の有料老人ホームとの連携や連絡体制を整備している。通報訓練や消火訓練、設備の点検等、定期的な訓練・学習を実施している。 | 管理者は、地震や水害等、総合的な防災訓練の必要性を認識しており、今後の取り組みが望まれる。地域との連携については、新興住宅街という地域性もあるが、地域住民と課題を共有し協力体制を築くことを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人格を尊重した介護、サポートのために適切な言葉づかいをし、居室、トイレへはノックをしている | 居室にはノックして入室することやドアを開けたままにしないことなど、人格や誇りを守るための基本的事項を徹底している。また、入浴や排泄の支援などの具体的な事例に即して、認知症の理解や尊厳保持について研修会を行っている。日々の職員の対応について、気になることがあれば管理者がその都度注意している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ゆっくりと傾聴し思いを聞き出し全ての利用者が自己決定できるよう働きかけている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 無理強いせず自分のペースで自由に過ごせるようサポートしている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 家族が用意した衣服を気候にあったものを着用してもらっている。家族が用意できないときは職員が代行している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みや食べたいものを伺い調理や片付けは出来る方から手伝ってもらっている | 利用者の重度化が進んでいるが、一人ひとりのできることを見極めて、職員がともに食事の準備や後片付けを行っている。一緒に献立を考えたり、誕生会のメニューの希望を聞くなど食事が楽しみなものとなるよう工夫している。おやつ作り等も行い、力を発揮できる場面作りに努めている。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、和やかに会話しながら食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分記録表により各自にあったものを提供している。自力で食べれない方には介助を行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後一人一人にあった口腔ケアを行っている 週一回ポリデント消毒を実施している | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し誘導、介助を行い出来る事はしてもらっている | 毎日排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し表情や仕草を見ながら、トイレで排泄できるように誘導や声かけを行っている。自分でトイレに行けるように目印をつけて、トイレでの排泄が習慣化し、自立につながるように支援している。水分摂取や体重の増減にも気を配り、介護度の高い人もできるだけトイレで排泄できるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜・乳製品等をメニューに取り入れている。毎日、午前・午後の二回体操を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴剤を活用しリラックスできるよう工夫している。その日の体調に合わせて入浴して頂いている | 利用者一人ひとりの希望や状況に合わせて柔軟に支援している。その人の状態によって福祉用具や介助の方法を工夫し、安心して入浴できるように支援している。変わり湯を定期的に行い、リラックスして入浴を楽しめるよう工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 寝具、室温に配慮し休みたいときに安眠して頂けるよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員二名で服薬の確認を行っている。個人別の薬についていつでも確認できるようケース記録に閉じている。変化時には主治医に相談している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人、家族から聞き取りを行いレクリエーションや生活のなかで活かしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人、家族から聞き取りを行いレクリエーションや生活のなかで活かしている | 利用者の希望を聞きながら、建物の周辺や馴染みの散歩コースである公園に出かけたり、スーパーへ日用品の買い物に出かけるなど、日常的な外出支援を行っている。博物館やテーマパークへの外出もしている。また、誕生会を大切な行事として捉えて、プレゼントなどを選びに出かけている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 立て替え金のため本人の所持金はない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望や必要なときには自由に電話ができるよう支援、また家族間での手紙のやりとりも支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 音、光、温度・湿度表をチェックしている。リビングダイニングに生花をおき季節感をとりいれている | 共用空間は広いスペースがとられ、季節の花を飾ったり、献立を掲示するなど親しみやすい雰囲気作りをしている。吹き抜けの中庭があり、心安らぐ環境の一助となっている。キッチンから調理している音やにおいが感じられることにより、時間の経過ごとにダイニングで談笑する利用者の数が徐々に増えてくる様子が見えてきた。 | 共用空間には、季節を感じられる掲示物や馴染みの雰囲気、親しみやすい雰囲気の装飾が施されている。しかし、それらは高い位置に掲示されていて利用者にとっては見にくい。また、食堂にトイレへの誘導表示がされているが見直しができないまま掲示されており、場にそぐわない掲示になっている状況があった。利用者の目線や動線、必要性等を意識して検討した上での空間作りを期待したい。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | りびんぐ・ダイニング等に集まれるスペースがあり思い思いにくつろぐことができる | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの物や使い慣れた道具を配置し家族と話し合いながら安心して過ごせるよう支援している | 居室にはクローゼットと洗面台が備えつけられ、その他の身の回りの品はすべて持ち込んでもらっている。使い慣れた物品や思い出の品々、カレンダー、家族の写真、装飾品などを飾り、居心地の良い空間作りに努めている。利用者の動線に配慮してベッドやチェストなどの位置を工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に配慮した環境づくりに努め矢印と使い慣れた言葉で分かりやすさに配慮している | | |